

横山 猛さん（出雲市出身）

亥年

須佐神社 権禰宜

出雲市佐田町生まれ

高校卒業後、大阪でサラリーマンとして勤務

平成9年退職し佐田町へ

3～4年を経た後須佐神社の神職に



大阪から出雲に帰ってきたとき「空気に色がある」ことに気がつきました  
四季のなかでは特にGW前後の木々の葉っぱに濃い、薄いなどいろいろな  
“緑”がある時期が好きです  
空気を感じることで生活する周囲の環境を感じることができます

出雲のとおきのおきの場所やものなどは特にありませんが、ここ最近「人生あるがまま」ということを思うようになりました  
自分のできることをする、人の批判など他人をみるよりはまず自分のことをする、みる、というように「人は人、自分は自分」と感じます

須佐神社の周辺は、昔から神社と暮らしが密着しており、いろいろな行事で地域全体が神社と共に暮らしています

ただ、“大杉さん”をTVで紹介されたことから市外、県外の参拝客が増えたことはいいことですが、中にはマナーを守らない方々があり、杉が傷むことから周囲に柵を設置しました  
また本来、参拝される方は神社を厳粛に参拝後、社を一回りされますが、参拝しないでおみくじを買うだけや大杉さんに触れるだけなど参拝目的ではない方があり、これがちょっと残念です

出雲市だけに言えることではありませんが、町部と田舎では「地域格差」「生活格差」があると思います  
町部でも田舎でも高齢者が住んでいらっしやいますが、公共交通機関が特に少ない（便がない）ことや道路の整備が遅れていることなどから、田舎の高齢者の方が通院のため町部の総合病院に行くとなれば少ないから極端に言えばその日に帰れない、また、買い物にも行けないし販売車が来ることもありません

町部では道路が新しく造られています、便利がいい町部ではなく田舎で造るべきであると思います

このことは田舎に住む方々にとってはより生活が便利になることにつながるものであるのではないのでしょうか

そもそも道路を造る時に“便利さ”より“都市部の経済効果”を求められていることに疑問を感じます

また、各種会合はそのほとんどが町部で開催され、田舎に住んでいるものとしては出掛けることさえ困難で、そのため意見することができません

このような格差をなくすために「住んでよし、暮らしてよし」のPRをお願いします

好きな言葉は・・・

『 在儘

横山 猛 』